



北陸農政局 消費者の部屋

展示期間：1月11日（火）～1月31日（月）



展示テーマ：北陸にはこんな農業遺産・



かんがい施設遺産があります！

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】①

世界かんがい施設遺産

うわえようすいろ 上江用水路 [新潟県・上越市・妙高市]

- この地域は、非常に高品質な米が作られる場所として全国的に有名。だが、上江用水路建設以前は、収穫期までの水の確保が困難。
- 1573年からの水路建設には、農民自らの計画と資金で少しずつ進捗。指導者は新たな村の名前となったり伝説が作られたりして今でも崇拜。
- 日払いの賃金が払われるほど難度が高い危険なトンネル工事であったが、高度な技術による誤差はわずか。水路完成により12,000人の食糧供給が実現。

【世界水遺産】

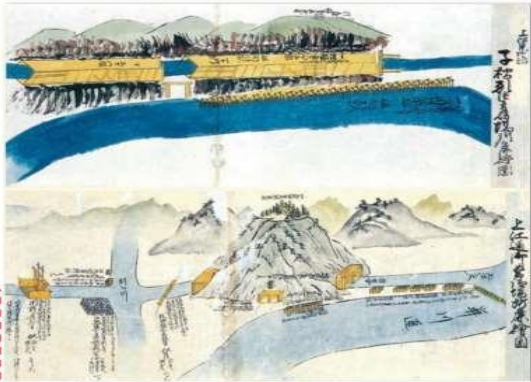
■ 関川水系土地改良区は、「関川水系土地改良区と客水地区航運金減免制度」として、通称「客水用水」の「客水」の農家が協力して、用水組合を組織して340年間、用水組合を維持してきたことが評価され、世界水遺産としても認定されています。



指導者の肖像

Uwae Irrigation Canal

130年間に及ぶプロジェクトで実現した高品質米の一大産地



建設時のトンネル絵図

1931年頃の川上隧道



米増地内の上江用水改修工事の様子
1915年（大正4年）

問い合わせ先 関川水系土地改良区 TEL. 025-522-5722

上江用水路見どころポイント〔上江用水記念公園〕



上江用水の由来

上江用水は、今から約四百余年前の天正年間、農民の真摯な要望により開削された用水路です。妙高山群を水源とする母なる関川の水を、この地川上に於て堰止め、現在の吉木新田、新保、西家の三集落の用水開削が上江用水路の基でした。その後、寛文年間、吉木村から米増村迄の五集落の用水路の掘り継ぎが行われました。

元禄年間に入ってから第二期の開削事業となり、山部村から深沢村までの十四集落を大熊川・別所川・雁平川を越える難工事を経て掘り継ぎました。

安永年間になつてから第三期工事に入り、世紀の大事業とも言われる三丈掘の難工事を完工し、柳池川・飯田川を越えて長岡村迄、四十一集落を灌漑する大用水路が完成しました。この大事業の基本は、自普請として、長い歳月を経て掘り継いだ用水路です。

かくて延長六里拾余町（約二十六km）、三千町歩（約三〇〇ha）の農地を潤す県下屈指の大用水となりました。この間、約百三十年の歳月を費すと共に、数万人の先人の汗と努力の結晶によって完成したものです。

近代に入ってから、電力会社が豊富な関川の流量を利用して十数か所の水力発電を起工し、これによって扇形発電所からの放流水が上江・中江両用水の主流となりました。まさに農業用水と電力用水の共存共栄の範となりました。

昭和五十八年完成した笹ヶ峰ダムは、十五年の事業歳月を経て、関川上流の笹ヶ峰に、関川地区土地改良区連合の協同のもと、国営事業によって、〇〇〇万トン貯留の農業用水ダムであり、このダムから、農業用水と電力用水の調整配分を行っています。

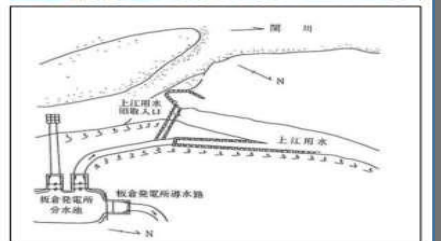
上江用水支弁を記念して水稲生産の母なる上江用水路の旧取入口地点に記念碑を建立し、先人の偉業を偲び後世に伝えます。

- 現在の用水取入口（東北電力柳の分水池）
- 右ゲートは隧道で板倉発電所経由で上江用水路と中江用水路へ
- 中ゲートは上江用水路へ
- 左ゲートは余水吐（関川）へ



明和九年（一七七二年）作成の上江用水路取入れ口の絵図

上江用水路旧取水口
国営事業で昭和55年に用水路が改修されるまで使用されていた。
〔図は国営事業実施前の取水口の状況図〕



【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】②

上江用水路見どころポイント〔川上隧道・川上権現社〕



川上線穴隧道

開削当初、関川沿いにあった上江用水は、関川の氾濫のたびに流失し、通水に支障を来していました。そこで1810年川上集落の大地主だった松岡伊右衛門(まつおかいへもん)方をお願いし同人の屋敷の下に、線穴隧道(トンネル)を掘削しました。

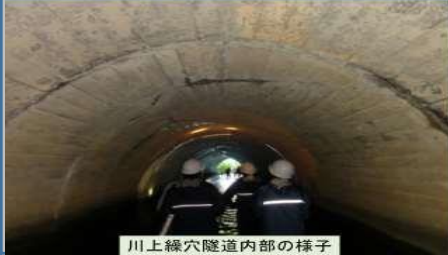
個人の屋敷下に水路を通すという発想は、当時は革新的であり上江用水を安定的に通水したいという情熱の表れであります。

当時の工事概要は、幅約3.3m、高さ1.7mの馬蹄形で、長さは220m、工事動員数は4,280名、費用は約金122両(追加:現在の金額に換算すると約1,586万円)でした。

線穴隧道完成後、1世紀を超える年月が経ち1931年、豪雨災害により隧道内部が崩落したことから大規模な復旧工事が行われました。近年になり、国営工事で、この隧道(トンネル)の詳細調査をしたところ、歪みもなく、また、内部補強の必要もなかったことから、当時の高度な土木技術がうかがえる施設です。



江戸時代の川上線穴隧道絵図



川上線穴隧道内部の様子



川上権現社

この工事は、山をくり貫く難工事であったことから工事の安全を祈願して川上権現社が建立されました。毎年4月21日には地元町内会によって厳かに例祭が執り行われています。

世界かんがい施設遺産

じょうさいごうくちようすい

常西合口用水

〔富山県・富山市〕

Jyosai-gokuchi Irrigation System

～国内屈指のあばれ川を克服した日本最古の大規模合口用水～

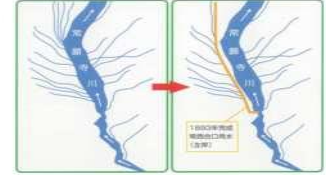
- 世界有数の急流河川である常願寺川には数多くの取水口があり、特に流れの速い左岸側では、洪水の度に、取水口の崩落や土砂埋没を起因とする氾濫により甚大な農業被害が発生。
- 度重なる氾濫を防ぐため、オランダ人技師ヨハネス・デ・レーにある治水計画と合わせて、左岸に12の用水の取水口を廃止し、上流の安全な箇所統合取水口を設置する「用水の合口化」を提唱。
- 当時の受益面積は約5,000haに及び、このような大規模な合口事業は全日本でも初の試みであったが、蓄積されてきた災害時の記録等を活用し、1万人以上の作業員を動員するなどで、約12kmの幹線水路、2ヶ所の隧道や沈砂池等を含む大工事を、わずか2ヶ年という短期間で1893年に完成。
- 今では、農業用水のみならず、上水道や工業用水、水力発電にも、利用され地域の発展に貢献。また、赤煉瓦で構築される「新庄の赤門」と呼ばれて親しまれる排砂門や、プロムナードなどが、やすらぎの水辺空間を地域住民に提供。



現在の常西合口用水



洪水被害の治水見聞録 (1858年)



合口化前後の対比図



建設当時(右上)と現在(左下)の排砂門

問い合わせ先 常西用水土地改良区 TEL. 076-411-5655

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】③

常西合口用水

～国内屈指のあばれ川を克服した日本最古の大規模合口用水～

常西合口用水は、富山県富山市を流れる延長約12kmの用水路で、農地約3,300haにかんがい用水を供給するとともに、上水道や工業用水の他、水力発電にも活用されるなど、地域の暮らしを支える農業用水である。



現在の常西合口用水



新庄排砂門「新庄の赤門」

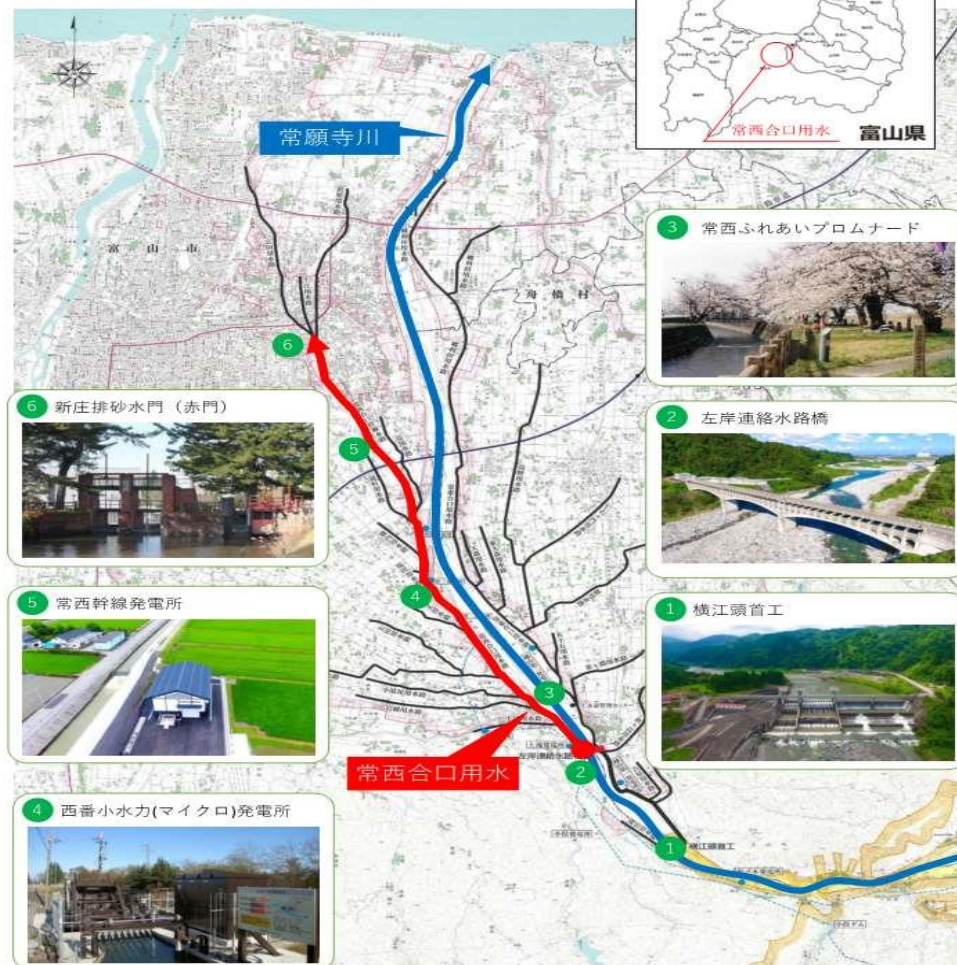
また、同用水の下流では度重なる洪水により流れ込む土砂対策として、明治33年（1900年）に新庄排砂水門が造成された。同水門は赤煉瓦で構築され、「新庄の赤門」の名で長年にわたり、地域の住民から親しまれている。

さらに、常願寺川の氾濫を防ぐために戦国時代に築かれた「佐々堤（さささてい）」が同用水の底面に残っており、今も当時の姿を偲ばせるほか、全国に先駆けてやすらぎのある水辺空間の整備を図り、歴史的にも景観的にも県民にとって貴重な施設となっている。



用水底に見える佐々堤の一部

常西合口用水施設マップ



【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】④

世界かんがい施設遺産

しちかようすい 七ヶ用水

〔石川県・白山市他〕

1901年頃の大水門



現在の大水門

1903年通水式の隧道



Shichikayousui Irrigation System

安定的・効率的な水利用を可能にした世紀の合口事業

- 1903年以前の手取川には七つの用水システムがあり、それぞれ手取川から取水。氾濫などの水害や、非効率的な水利用による水不足、水争いが発生。
- 当時の近代化政策のなかで、七つの用水システムの取り入れ口をひとつにまとめる「合口事業」が1903年に完成。
- 七ヶ用水の建設には延べ10万人が投入され、取り入れた用水の反復利用や堅牢地盤における水路建設など効率的かつ合理的な構造。

現在の給水口



問い合わせ先 手取川七ヶ用水土地改良区 TEL. 076-276-1166



江戸時代・幕末～明治時代・初頭の用水 七ヶ用水の父・枝 権兵衛



毎年のように起こる洪水や日照り

江戸時代、手取川の上流から下流の両岸には取水口がいくつもありました。夏の日照りの時期は十分な水が取れないために、すべての用水に水がいきわたらず、水の取り合いが原因で村同士の争いが絶えませんでした。また、洪水のたびに取水口や堰が壊れたため、多大な労力をかけて毎年のように作り直していました。「洪水にも負けず、日照りでも水を導けないだろうか」と村のために立ち上がったのが坂尻村の枝 権兵衛です。七ヶ用水のひとつ・富樫用水の取水口「十八河原」は、その当時、取水に適さない場所でした。川を詳しく調べた権兵衛は、川底が深く日照り続きでも水が枯れない「安久瀧ヶ淵」に取水口をつくることを決意します。

私財を投じ、農民を救った大工事

権兵衛は加賀藩の産物方役人、小山良左衛門の協力により資金を工面し、1865年(慶応元年)、工事に着手します。岩山を削って309mのトンネルと、730mの水路をつくるという大工事は、機械や電気などない時代だったため数年にも及び、なかなか完成しませんでした。途中「工事をするとたたりがある」などの悪いうわさや、危険な工事に耐えきれず「給料を上げろ」とさわざ出す人が続出します。数々のトラブルや村人の反論にも負けず、権兵衛は熱心に工事の大切さを訴えます。藩からの資金が途絶えた後は自分の私財を投げ打ち、先頭になって工事を続行。そんな権兵衛の熱意に賛同する人も増え、1869年(明治2年)に工事は完成しました。

枝 権兵衛 (1809～1880)

1809年(文化6年)、坂尻村(現在の白山市坂尻町)の大農家に生まれた権兵衛は、10才のときに村の組合頭に就任。その後、肝煎(今でいう村長)にも選ばれ、ほかの村の肝煎も兼任するほど周囲から慕われていた人物。富樫用水の新たな取水口を設ける大工事によって、1800ヘクタール(東京ディズニーランド36個分相当)の田畑に水がいきわたるようになり、農村の貧困を救った。



蛇籠と川鞍



江戸時代以前は、籠に石を詰めた蛇籠や材木を組み合わせた川鞍など、簡易な堰を川に張り出し取水口から水を取った。

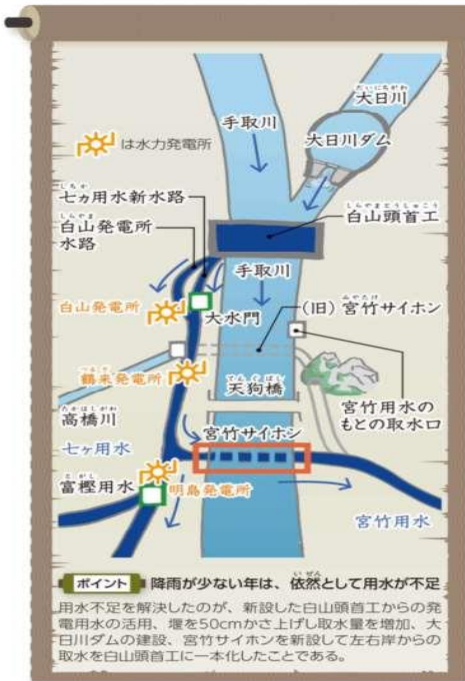
CHECK!

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】⑤



昭和時代の用水

白山頭首工の築造で水不足を解消



水力発電と農業用水の共存

江戸時代、明治時代と、大がかりな用水の改修工事や新設工事を行ってきましたが、それでもまだ洪水によって生じた地形の変化で取水量が減少し、水不足などの問題が課題として残されていました。その問題は、水力発電の運用計画を進める電力会社との協働によって解決に向かいます。

1937年(昭和12年)、川の水を水力発電に利用するために、手取川水力発電株式会社(現在は北陸電力株式会社)が大水門の上流に「白山頭首工(発電用水取入口)」という堰と、水路、発電所をつくりました。発電に使った後の水は河川に放流する計画でしたが、その当時、大水門前の川底が低下して農業用水の取水が困難な状況にありました。このため、農業用水として利用できるように新たにトンネルを掘り、明治時代につくられたトンネルに連結させる計画に変更しました。

取水口を白山頭首工に一本化

それでもまだ大水門からの取水が難しいため、国営手取川第一土地改良事業によって、1949年(昭和24年)に右岸の七ヶ用水の取水口を大水門から白山頭首工へ移行。頭首工の高さを50cmかさ上げし、発電用水路「白山発電所水路」のとなりに農業専用水路「七ヶ用水新水路」を新設しました。その後、1967年(昭和42年)に右岸から左岸に水を導く「宮竹サイホン」を設置し、これにより、発電用水、右岸の七ヶ用水、左岸の宮竹用水のすべてを白山頭首工から取水するようになりました。

❖水力発電の仕組み

水を高い所から低い所に流すことで生まれるエネルギーを使って発電機を動かし、電気をおこす仕組み。二酸化炭素(CO₂)を排出しないクリーンで再生可能な発電方法だ。電力会社が運営する「発電所」のほか、土地改良区が用水路の整備や運営のために電気をおこす「小水力発電所」がある。



手取川から取った水は、発電用の積貯がある水路に流す。落差を利用して一気に水が流れ込み、その力で水車が回る。水車の回転で発電機が回り、電気が生み出される

世界かんがい施設遺産

足羽川用水

【福井県・福井市】

Asuwagawa
Irrigation
Canal



江戸時代の高い技術により、現代も広大な農地と地域住民の生活を潤す

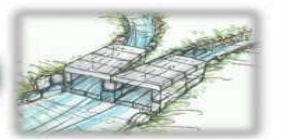
- 足羽川用水は1,997haの広大な農地をかんがいする幹線水路の総称(7路線、総延長22km)。江戸時代宝永年間(1710年頃)にほぼ現在の形に整備。
- 当時としては珍しい合口(ごうぐち)のための堰などを築くとともに、水路の分水地点に定石(じょうせき)を布設し水争いを緩和。当時の測量技術や設計水準の高さが伺い知れる江戸時代の古文書が現存。
- これまで幾多の災害に見舞われるも、その都度、住民主導で堰堤や水路の補修・改修を実施。地域住民の生活に密着した用水でもあり、用水沿いの街並みと調和した街道や、本用水を引き込んだビオトープ整備など、農業用水を活かした地域活性化の取り組みも盛ん。



両脇の街道とともに
用水が流れる町並み



徳光大用水江幅相改証文帳



分水地点に配置された定石
(伝聞による想像図)



伝統行事のおつね祭り



酒生わいわいトープ

問い合わせ先 足羽川堰堤土地改良区連合 TEL. 0776-41-4132

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】⑥



見つけてみよう！ 足羽川用水のお宝マップ

あ



郵便箱 1号(円形)

あまり見かけなくなった丸型ポスト。現役です。明治41年頃～昭和45年まで主流でした。今は多くが四角いポストに変わりました。

水

堂田川
やすらぎの景色

堂田川の周りには、なつかしい景色がたくさんあります。どんな出会いがあるか楽しみに歩きましょう。

水

農業用水の
ある暮らし

古くから里を流れ、人の生活を支えてきた農業用水。今も変わらないものと変わるもの。時代の中で水と共に暮らす人の知恵が感じられます。

い



除塵機(スクリーン)

農業用水路に入った草木やゴミを取り除く施設。ここから水は地中にもぐり、足羽川の下をくぐって対岸に運ばれます。地中のパイプにゴミが入らないよう入口にスクリーンが設置されています。

す



洗い場

昔は家畜の洗う用水路に設けられ、洗濯や収穫した野菜を洗うなど農業用水と生活がとても密接な関係にありました。

す



杉玉

杉の葉でできています。日本酒の造り酒屋の軒先に吊るすことで、新酒が出来たことを知らせることから、酒林(さかばやし)とも呼ばれています。



わ



カッパ

堂田川にはカッパがいます。地域の方に愛されて、季節ごとにかわいい衣装に着替えています。

が



7連水門

この水門は、大雨等で開水路内の水量が増加した時に、水路横の地中に埋設してある管水路(パイプライン)に余分な水を放流するために設置されています。

わ



水位計

農業用水路内の水位を測るための施設。水路の主要箇所を設置され、自動で計測されたデータによって、水路内の水深や流量を把握できます。

よ



懸樋(かけひ)

水を引くために地上に設けた樋(とい)の上を水が流る、ちょっと不思議な光景です。

う



大森神社跡鳥居

分神社が大森神社と呼ばれていた頃の跡地に残る大鳥居。田園風景の中に、忽然とそびえる姿は、意表をつかれます。平成11年に福井市の景観重要建造物に指定されました。

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】⑦

足羽川用水 世界かんがい施設遺産登録記念 ウォーキング大会コース【約4 km 3時間（各地点での滞在2時間含）】

①足羽川頭首工

(見どころ)
・取水の合口、建屋内見学、川面からの眺望

②旧足羽川頭首工、水車、農業体験施設

(見どころ)
・旧足羽川環堤の保存施設と当時の位置
・三連水車、農業体験施設

③導水路、分水施設、消生サイフォン

(見どころ)
・導水路、沈砂池、最初の分水地点
・サイフォン入口・出口

④JR越美北線と三ヶ用水

(見どころ)
・越美北線橋梁下の通り抜け（※撮影スポット）

⑤青木家屋敷林と三ヶ用水

(見どころ)
・青木家の大榎と三ヶ用水の景観
・三ヶ用水の水音（青木家前の水路のみ体感可）
青木家庭園と蘭蘭酒

⑥徳光分水と除塵機

(見どころ)
・各路線の水路高の違い、用水路への排水流入のわけ
・除塵機の可動状況、集塵の中身

⑦徳光用水と水田

(見どころ)
・水路・水田・里山のパノラマ景観

⑧徳光下江用水（堂田川）と酒蔵、⑨堂田川ふれあい橋

(見どころ)
・用水を核とした街並み景観
・地元酒蔵（安本酒造、毛利酒造）
・堂田川ふれあい橋

(凡例)

	(往路) ウォーキング
	(復路) バス移動

⑦ 背丈程の高さ

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】⑧



農業遺産・かんがい施設遺産を旅しよう
ヘリテージツーリズム

- 農業遺産・かんがい施設遺産を巡るモデルコースをご紹介します
- 国内全ての農業遺産・かんがい施設遺産を一覧でご紹介

農林水産省



北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！

消費者の部屋



【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】⑨

世界かんがい施設遺産

世界かんがい施設遺産とは、かんがいの歴史・発展を明らかにし、理解醸成を図るとともに、かんがい施設の適切な保全に資するために、建設から100年以上経過し、かんがい農業の発展に貢献したものの、卓越した技術により建設されたもの等、歴史的・技術的・社会的価値のあるかんがい施設を国際かんがい排水委員会（ICID）が認定・登録する制度です。

登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています。

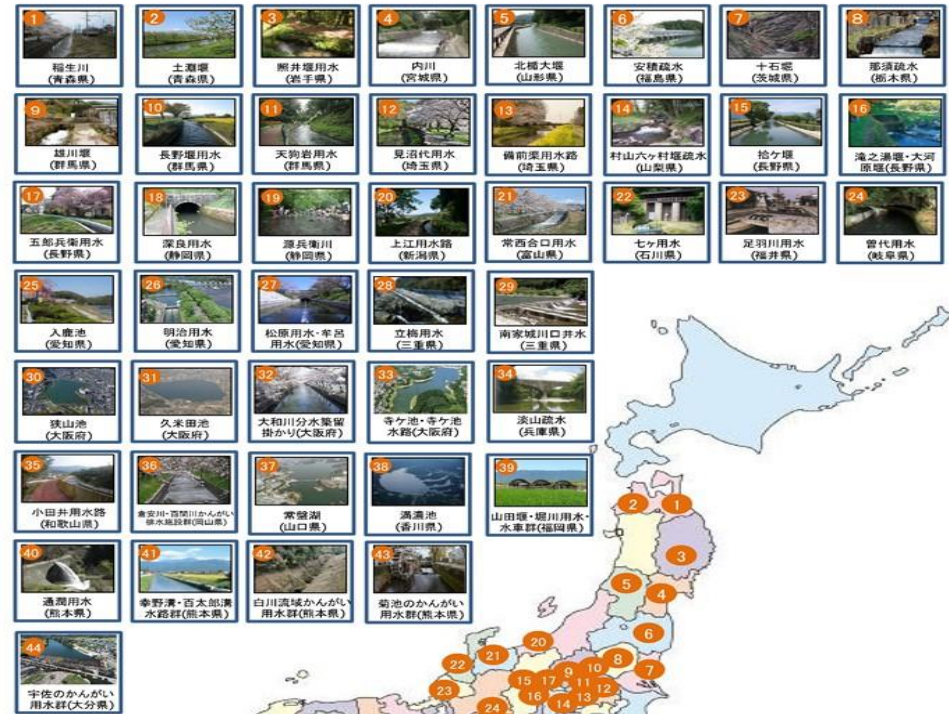
国名	登録数
日本	44
中国	26
インド	10
イラン	8
スリランカ	8
韓国	7
イタリア	4
豪州	2
エジプト	2
イラク	2
メキシコ	2
タイ	2
アメリカ	2
マレーシア	1
モロッコ	1
パキスタン	1
ロシア	1
合計	123

世界で17ヶ国123施設が登録されています。(令和3年12月現在)



日本国内における世界かんがい施設遺産

日本国内では、44施設が登録されています。(令和3年12月現在)



注) 本資料に掲載した地図は、必ずしも、我が国の領土を包括的に示すものではありません。

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】 ⑩



世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems

topic 01 世界農業遺産(GIAHS)とは

世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を国連食糧農業機関（FAO）が認定する制度です。

topic 02 世界農業遺産認定地域

世界で22カ国62地域、日本では11地域が認定されています。
(令和2年6月現在)



topic 03 国内の世界農業遺産認定地域 ※カッコ内は認定年月



日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems

topic 01 日本農業遺産とは

日本農業遺産は、我が国において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を農林水産大臣が認定する制度です。

topic 02 日本農業遺産認定地域

日本農業遺産は、22地域が認定されています。(令和3年2月現在)



世界農業遺産と日本農業遺産の違いについて

世界農業遺産は、世界において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を、国連食糧農業機関（FAO）が定める5基準と保全計画に基づき、世界農業遺産科学助言グループが審査・評価し、FAOが認定する制度です。

日本農業遺産は、先進国として問題意識に基づく認定を行うため、我が国において重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を、世界農業遺産の認定基準に準拠しつつ、日本独自に定めた3つの認定基準を加えた8基準に基づき、世界農業遺産等専門家会議が審査・評価し、農林水産大臣が認定する制度です。

世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems



佐渡の里山に帰ってきたトキ

トキと共生する佐渡の里山 (新潟県佐渡市)

生きものを育む農法を島内の水田で実施し、トキをシンボルとした豊かな生態系を維持する里山と、集落コミュニティを高める多様な農村文化を継承。

Globally Important Agricultural Heritage Systems



小倉千枚田

佐渡市では、トキとの共生を目指して、多様な生きものが生息できる環境を整えるために、トキの主な餌となるドジョウなどが生息する水田において「生きものを育む農法」に島全体で取り組んでいます。水田の水を抜く中干期にも「江」と呼ばれる深みを設置し、生きものの逃げ場となる水辺をつくるなど、1年を通して生きものが生育できる環境をつくっています。

このように、生産の効率化だけでなく、環境に配慮し育てられた米は、「朱鷺と暮らす郷」の名称でブランド化され、販売利益の一部をトキの保全活動に充てることで、食と命を育む生きものと共生した持続的な農業が展開されています。



車田植え
国の重要無形民俗文化財指定



江(深み)の設置
1年を通して田んぼの生きものを育みます。

世界農業遺産

世界農業遺産

Globally Important Agricultural Heritage Systems



日本の棚田100選「白米千枚田」(輪島市白米町)

能登の里山里海 (石川県能登地域)

日本海に面した急傾斜地に広がる棚田や潮風から家屋を守る間垣など独特の景観を有する。江戸時代から続く揚げ浜式製塩法や海女漁などを継承。

Globally Important Agricultural Heritage Systems



青柏祭の曳山行事
ユネスコ無形文化遺産登録



キリコ祭り (撮影:早野由香)
日本遺産認定

能登地域には、日本海に面した急傾斜地に広がる「白米千枚田」をはじめとした棚田や、海の強い潮風から家屋を守る間垣と呼ばれる竹の垣根など、日本の農山漁村の原風景ともいわれる独特の景観が見られます。また、伝統的な技術として、「揚げ浜式」と呼ばれる日本で唯一能登にのみ残る製塩法や、女性が素潜りでサザエやアワビを採る「海女漁」、里山の保全・管理と密接に結びついた「炭焼き」などが受け継がれています。

このほか、豊作豊漁を願い、巨大な灯籠を担いで練り歩く「キリコ祭り」や、農耕神事「あえのこと」など、農林水産業にまつわる祭礼が能登の各地で行われています。



あえのこと
ユネスコ無形文化遺産登録



揚げ浜式製塩
国の重要無形民俗文化財指定

世界農業遺産

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



長岡市山古志地域 棚田・棚池冬景色

雪の恵みを活かした稲作・養鯉システム (新潟県中越地域)

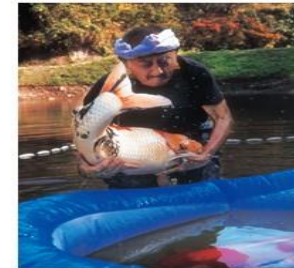
水の少ない山間地において、横井戸や雪解け水を利用した稲作と養鯉が伝統的に行われ、突然変異の色鯉を育種した、錦鯉の発祥の地。

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



小千谷市小栗山地域 棚田・棚池景観

山間部の豪雪地帯に位置する当地では、棚田で稲作を行うとともに、冬期のタンパク源として農家がため池で食用の真鯉を飼う暮らしが行われてきました。山間地で水が少ないことから、血縁組織「マキ」による横井戸の掘削や、雪解け水の貯水により稲作や養鯉に用いる水を確保する技術が受け継がれてきました。江戸時代後期に、この真鯉から突然変異で生じた色鯉を育種したことで、当地域は世界における錦鯉の発祥の地となりました。質の高い錦鯉は地域の重要な収入源であり、当地の原種が世界各地で利用されるなど重要な知識システムとして継承されています。養鯉業は地域に若い労働力を引きつけ、畦や棚田が保全され、ため池と棚田が入り組む特有のランドスケープの維持や、祭や料理などの地域文化の維持にも貢献しています。



錦鯉発祥の地
良き成長を願い、期待を寄せる錦鯉の池上。

日本農業遺産

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



氷見沖に浮かぶ
越中式定置網

氷見の持続可能な定置網漁業 (富山県氷見地域)

資源や環境にやさしい氷見の定置網漁業は、400年以上前から農林業や文化、信仰などと深く関わりながら、全国の定置網漁業のモデルである「越中式鰯落とし網」に発展し、今でも地域を支えている。

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



定置網漁の
網上げの様子

当地域は、沖合に発達した大陸棚や冬の季節風を避る能登半島などが好漁場をもたらし、古くから定置網漁業が盛んに営まれ、春は鰯、夏は鯖、秋から冬は鰯が多く水揚げされてきました。特に、鰯は昔から時の権力者などへの献上品にも使われ、今も「ひみ寒ぶり」として全国に知られています。

定置網漁業は、地域に雇用や水産加工などの産業をもたらし、人々も農業や良好な漁場を育む魚つき保安林の保全、嫁ぶりの風習、食文化、信仰など、海を思い、深く関りながら暮らしてきました。

また、先人が改良を重ねてきた定置網漁業の技術は、水産資源や環境にやさしい持続可能な漁法として、国内だけでなく近年は海外へも普及し、新たな6次産業化などの取組とともに、次の世代に継承していきます。



クロダイ・ヒラメの稚魚の放流



大自然からの授かりもの「ひみ寒ぶり」

日本農業遺産

日本農業遺産

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



若狭町・美浜町
三方五湖の風景

三方五湖の汽水湖沼群漁業システム (福井県三方五湖地域)

塩分濃度が異なる5つの湖で、400年以上の歴史を有するたたき網漁等の獲りすぎない伝統漁法、漁獲量や漁期の申合せ、相互監視などにより豊富な生物多様性が保全されている。

Japanese Nationally Important Agricultural Heritage Systems



三方湖
400年以上の歴史を有するフナ・コイ漁「たたき網漁」

システムの成り立ちは江戸時代に遡り、「若州うなぎ」や「シジミ」は日本最高級の汽水産物として京都へ運ばれ、当湖の漁業価値を高めてきました。その価値は現代に引き継がれ、漁業者や地域住民、多くの観光客に恩恵を与えています。

本地域では5つの湖と周辺集落、里地、里山で形成され「たたき網漁」等の獲りすぎない漁法、漁獲量や漁期の申合せ、漁業者間の相互監視などにより豊富な生物多様性が保全されています。里山の柴を漁具に使用し、捕れた魚は地域内で消費するなど、自然資源を地域内で循環させています。周辺集落に点在する神社や祭礼は地域の絆と安寧を生み、漁業を中心に地域的まとまりを形成しています。



くぐしこ
久々子湖「シジミ漁」



漁業を支える豊富な魚種



神社に奉納される湖の恵み

日本農業遺産

【北陸にはこんな農業遺産・かんがい施設遺産があります！】⑬

能登で世界農業遺産国際会議2021が開催されました

2021年11月25日～27日に石川県七尾市和倉温泉のあへの風を主会場とし、「世界農業遺産国際会議2021」が開催されました。



この会議は、2011年に「能登の里山里海」が我が国で初めて世界農業遺産に認定されてから昨年（2021年）で10年の節目を迎えることを記念して開催されたものです。



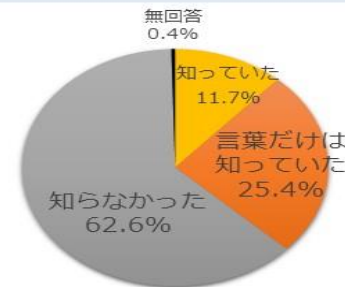
本会議では、「世界農業遺産認定による世界的課題への貢献について」をテーマにディスカッションが行われたほか、国内の認定地域から、各地域での世界農業遺産認定を活用した取組等についてプレゼンテーションが行われ、また、海外諸国からも自国の取組発表がありました。その他サイドイベントとして、ユースセッションなども行われました。



締めくくりには、今後も関係者がこの会議で得た知見と認識を共有し続け、行動を起こすために必要な点を取りまとめた成果文書「能登コミュニケ2021」が採択されました。

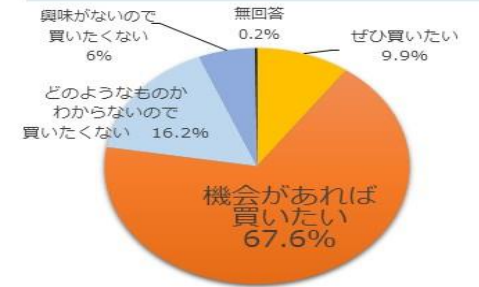
農業遺産に関する世論調査を実施しました

Q1.「農業遺産」について知っていましたか？



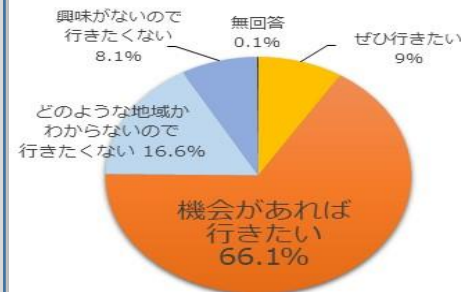
まだまだ知ってもらえていない。もっと広報が必要。

Q2.農業遺産地域の特産物を買いたいですか？



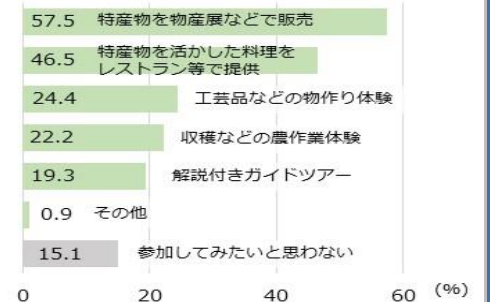
買ってもらえるチャンスあり！
どのようなものがPRすれば、さらに、チャンスが増えそう。

Q3.農業遺産地域に行きたいですか？



Q2とほぼ同じ傾向。
今後のPRがチャンスを生む？

Q4.農業遺産のどんな取組に参加したいですか？



85%程度の方から参加したい取組を回答いただいた。
物産展やレストラン等身近な取組に高い関心

出典：内閣府世論調査(令和3年10月15日公表)
<https://survey.gov-online.go.jp/hutai/tindex-all.html>